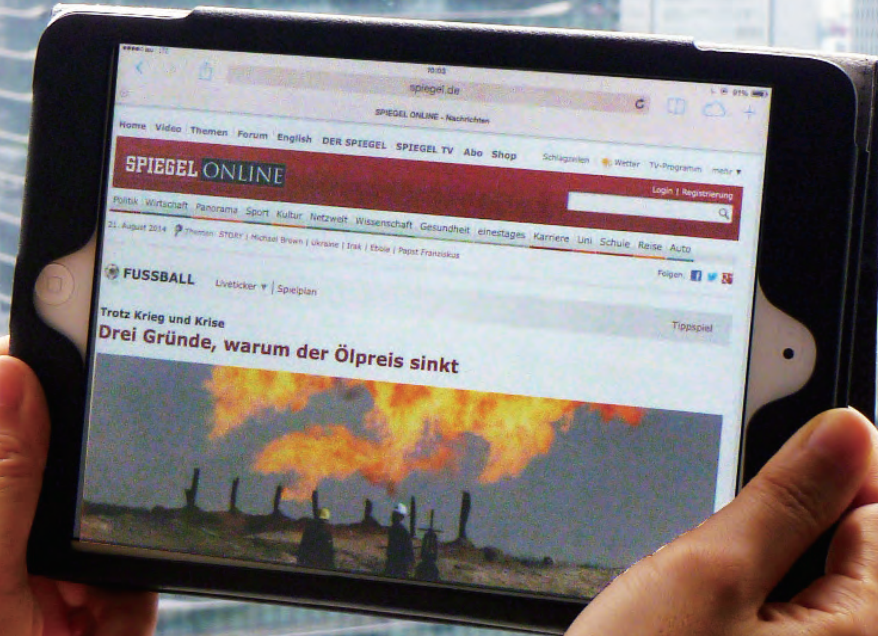


講演とディスカッション

ドイツメディアの変化 デジタル時代のジャーナリズム



日時：2014年9月10日(水) 18:30-20:00 (18:00 開場)

会場：大阪市立中央図書館 5階会議室 大阪市中央区北堀江 4-3-2
地下鉄千日前線・長堀鶴見緑地線西長堀駅7番出口すぐ

講師：マルティン・デリー (ジャーナリスト、元「デア・シュピーゲル」誌副編集長)

司会：能登智彦 (朝日新聞大阪本社 社会部兼地域報道部次長)

日独逐次通訳：松坂千也子

問い合わせ先：ドイツ連邦共和国総領事館 Tel. 06-6440-5070 info@osak.diplo.de (広報部 多田)

申し込み不要・参加無料

今年大阪市との友好都市提携 25 周年を迎えたハンブルクに本社を置くシュピーゲル出版が 1923 年より発行している「デア・シュピーゲル」誌は、ドイツの世論形成に積極的な役割を果たしており、時には雑誌そのものが重要な論争の対象となってきました。「デア・シュピーゲル」誌は長期にわたって社会的に最も大きい影響力を持つてきた週刊政治雑誌として重要な存在です。

本講演では、デジタル革命がドイツのメディア市場と出版市場に対して持つ意味と、ジャーナリズムとその報道形態へ与える影響について、「デア・シュピーゲル」誌で長年にわたり副編集長をつとめたマルティン・デリー氏が語ります。



マルティン・デリー (ジャーナリスト、元「デア・シュピーゲル」誌副編集長)

1955年6月21日、クルムホルツ近郊のフェルゼンに生まれる。アビトゥア(大学入学資格試験)の後、チュービンゲン大学でドイツ文学と歴史を学ぶ。1978年奨学金を得てチューリッヒ大学に留学。

1983年フリードリヒ・エーベルト財団の奨学金を得る。1985年に歴史の分野で博士号取得。

1985年から1987年まで SDR-スタジオ・カールスルーエでリポーターとして活動。1987年末、編集者としてシュピーゲル出版に移る。担当はドイツ第二部局、ドイツ連邦共和国。1991年10月マティアス・シュライバー博士とともに文化第二部局(文芸欄)の指揮をとる。1996年11月以降は、ゲルハルト・シュベール博士とともにドイツ政治部局で部局長として活躍。

1998年から2014年8月まで「デア・シュピーゲル」誌の副編集長。



主催：大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館、ドイツ文化センター

共催：大阪市立中央図書館、後援：大阪市

このイベントは大阪・ハンブルク友好都市提携 25 周年記念事業です。

